教育情報

桂川つ子

VOL.18

〝故郷〟を自慢できる子どもに!!

桂川町教育委員会
教育長　佐谷 千香子

私たちの町には、国の特別史跡「王塚古墳」があります。王塚古墳は、奈良県の高松塚古墳やキトラ古墳と並ぶ、日本三大装飾古墳の一つです。

このことは、私たちが住むここ、桂川の地が、古代からまほろばの里として人々にとって安住の地であったことを物語っています。そして今も、この町は美しい自然に恵まれており、深い緑に囲まれた山々を見る時、なぜか心が和みます。

風景だけではなく、人と人とのつながり、特に地域の皆さんの子どもたちに対する活動には素晴らしいものがあります。

補導員や保護司や地域のボランティアの方々による、朝のおはよう運動や夜の見回り運動。区長会、老人会の方々による声かけ活動。様々な催しの際に炊き出しなど、催しの運営を支える婦人会や食進会の方々。そして、「夢・人・未来塾」やアンビシャス運動、子ども会指導者の方々など、桂川っ子健全育成に関わってある多くの方々には、感謝の気持ちでいっぱいです。

保育所、幼稚園、小学校、中学校の先生方の頑張りにも感謝です。

中学校の道徳の副読本「心のノート」の「ここが私の故郷」に、次のような文章があります。

「目を閉じると浮かぶ景色がある
――日本のどこへ行っても、世界のどこへ行ったとしてもそこはあなたが戻るところ、あなたの故郷なのだ。」

いつも思い出すことができ、大好きだと言える故郷を持つことは、同時に自分を愛し、自分に誇りを持つことに繋がります。

子どもたちが良い思い出を持つことが出来る故郷づくり、この町に住んで良かったと思える町づくりに、私たち大人は、今以上に頑張っていきたいものです。

何ができるようになっているか？

―桂川小学校校長　本田 義隆―

本年度の重点内容到達度の中間評価をしました。

現時点で最も高い到達度を示している内容は、「いきいき桂川っ子事業」〝基本的生活習慣にもとづく行動をする〟です。学年によっては、80パーセントに到達しているところもあります。これも、地域・保護者の皆様のご支援、ご協力によるものです。学習のかまえにつながる土台づくりが着実に浸透してきていることを大変心強く感じています。

次に、高い到達度を示している内容は、〝清掃活動をする〟です。清掃活動ができることは、子どもの自己中心性が減少していることだと捉えます。自己中心性とは、自分と他者の視点が未分化な状態であり、自分の視点から脱して他者の視点から自分自身やまわりの事物、出来事を捉えることが困難な性質を指します。清掃活動は、自分のためだけでなく他者のために活動する視点が強化されます。清掃活動に取り組む到達度が高くなることは、子どもの自己中心性が改善されているということです。たのもしいことです。

第三に、高い到達度を示している内容は、〝教科書の中で「読めない文字がない状態になっている〟です。ある学年では、到達度77パーセントです。情報とは、情に報いることです。読める、わかるという快の情が、知識を蓄えていくのです。情を大切にすることが、子どもの意欲につながります。

できるようになったことで変化したことを認めながら、重点内容の到達度をさらに高めていくよう取り組んでいきます。

▲ 小学6年生を対象とした通学キャンプ（8月31日～9月6日開催）で、みんなの朝食を協力して手際よく作る子どもたち。